

栄養学科 2024 年度卒業生(令和 7 年 3 月卒業)に関する企業へのアンケート結果

1. アンケートの目的

栄養学科では、学修成果(到達目標)として、「基礎力」、「実践力」、「人間関係力」、「生涯学習力」、「地域理解力」の五つの項目を挙げている。この学修成果の各項目について、その到達状況を把握するとともに改善点を検討するための情報を得る。

2. 方法

2-1 調査項目

アンケートの調査項目を表 1 に示す。調査項目は、学修成果(到達目標)の各項目とし、設問は、経年変化把握を目的として、前年度実施調査と同じ質問内容を用いた。

2-2 調査対象

調査対象は、2024 年度(令和 7 年3月)に卒業した学生の就職実績のある企業で、学生総合支援センターで選択した 9 社とした。

2-3 調査期間及び回答方法

調査期間は、2026 年 2 月 25 日から 3 月末までの約 1 か月間とした。調査は、学科で作成した依頼文書を学生総合支援センターから調査対象企業の人事担当部署宛て送付し回答を依頼した。回答方法は、依頼文書で案内したマイクロソフトフォームズ上に作成した自記式アンケートフォームへの入力とした。

3. 結果

卒業生が就職した実績のある企業 9 社を対象に、令和 7 年(2025 年)3 月に卒業した卒業生(2024 年度卒業生)に関するアンケートを 2026 年 2 月に依頼し、5 社から回答を得た(回答率 56%)。アンケートの各項目の結果を、図 1 に、自由記載欄の結果を表 2 に示す。

アンケートの回答は、(とてもそう思う)、(ややそう思う)、(あまりそう思わない)、(まったくそう思わない)の 4 項目からの選択とし、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を肯定的な回答、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を否定的な回答として評価した。

すべての設問項目で、肯定的な回答が優位であった。否定的な回答は、「6.基本的な礼儀作法が身についている」、「9.知識や技術の習得に積極的である」、「11.栄養士の立場で、職場や地域社会に関わっている」の 3 項目で認められたが、その割合はいずれも 5 社中 1 社のみであった。自由記載欄では積極性に関するコメントが2社から、コミュニケーション能力に関するコメントが2社から、調理技術に関するコメントが 1 社からあった。

本調査の調査項目は、2023 年度卒業生を対象とした前年の調査と同じ様式と内容で実施した。調査項目別では、「1.一般的な教養と知識が身についている」、「2.栄養士に必要な基礎知識が身についている」、「3. 責任をもって仕事を行うことができる」、「5. 基本的な衛生管理を行うことができる」は、ほぼ変化が無かった。

これら四つの項目は、学修成果の【基礎力】および【実践力】にあたり、これら学習成果については、際立った変化は認められないと判断された。

また、「4. 基本的な調理技術が身についている」については、前年に認められた否定的回答が無くなり、改善の傾向が認められ、全体として、【基礎力】ならびに【実践力】については、前年評価からの改善傾向にあると判断された。

次に、「6.基本的な礼儀作法が身についている」については、(とてもそう思う)の割合が増加した一方で、(あまりそう思わない)の割合も増加しており、評価が分かれる結果となった。

「7.コミュニケーション能力がある」、「8.他者と協力して仕事を行うことができる」は、いずれも、際立った変化は認められなかった。

これら三つの項目は、【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力にあたり、

その中で、「基本的な礼儀作法」の修得についての課題が見受けられた。

「9.知識と技術の習得に積極的である」は、(とてもそう思う)の割合が増加した一方で、(あまりそう思わない)の割合もやや増加しており、評価が分かれる結果となった。

一方、「10.自分で問題点や課題を見つけることができる」は、今年度は全て肯定的回答となり、否定的回答は無くなった。

この二つの項目は、【生涯学習力】生涯にわたって学び、成長できる力にあたり、一部後退の意見があるものの、全体としては改善傾向にあると判断された。

「11.栄養士の立場で、職場や地域社会に関わっている」は、(とてもそう思う)の回答が無くなり、一方で、(あまりそう思わない)との回答が1社からあった。この項目は【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力にあたり、課題の残る結果となった。

自由回答では、積極性、コミュニケーション能力、調理技術に意見が寄せられた。今回のアンケート(質問 1～11)では、全体としては「基礎力」、「実践力」の二つの項目において改善方向を示す結果となったが、「人間関係力」、「生涯学習力」の一部と「地域理解力」において課題が見受けられたことから、今後の授業の継続的な改善を行う必要があると考える。

表 1 アンケート様式

下記の 4 段階評価より一つ選択し、該当する番号に○を記入願います。					
選択 4 段階					
(4) とてもそう思う (3) ややそう思う (2) あまりそう思わない (1) 全くそう思わない					
	項目	評価			
1	一般的な教養と知識が身についている	4	3	2	1
2	栄養士に必要な基礎知識が身についている	4	3	2	1
3	責任をもって仕事を行うことができる	4	3	2	1
4	基本的な調理技術が身についている	4	3	2	1
5	基本的な衛生管理を行うことができる	4	3	2	1
6	基本的な礼儀作法が身についている	4	3	2	1
7	コミュニケーション能力がある	4	3	2	1
8	他者と協力して仕事を行うことができる	4	3	2	1
9	知識や技術の習得に積極的である	4	3	2	1
10	自分で問題点や課題を見つける事ができる	4	3	2	1
11	栄養士の立場で、職場や地域社会に関わっている	4	3	2	1
12	要望（身につけて来て欲しい事や気づいた事）などございましたら、こちらにご記入下さい （自由記述）				

図1 企業アンケート結果

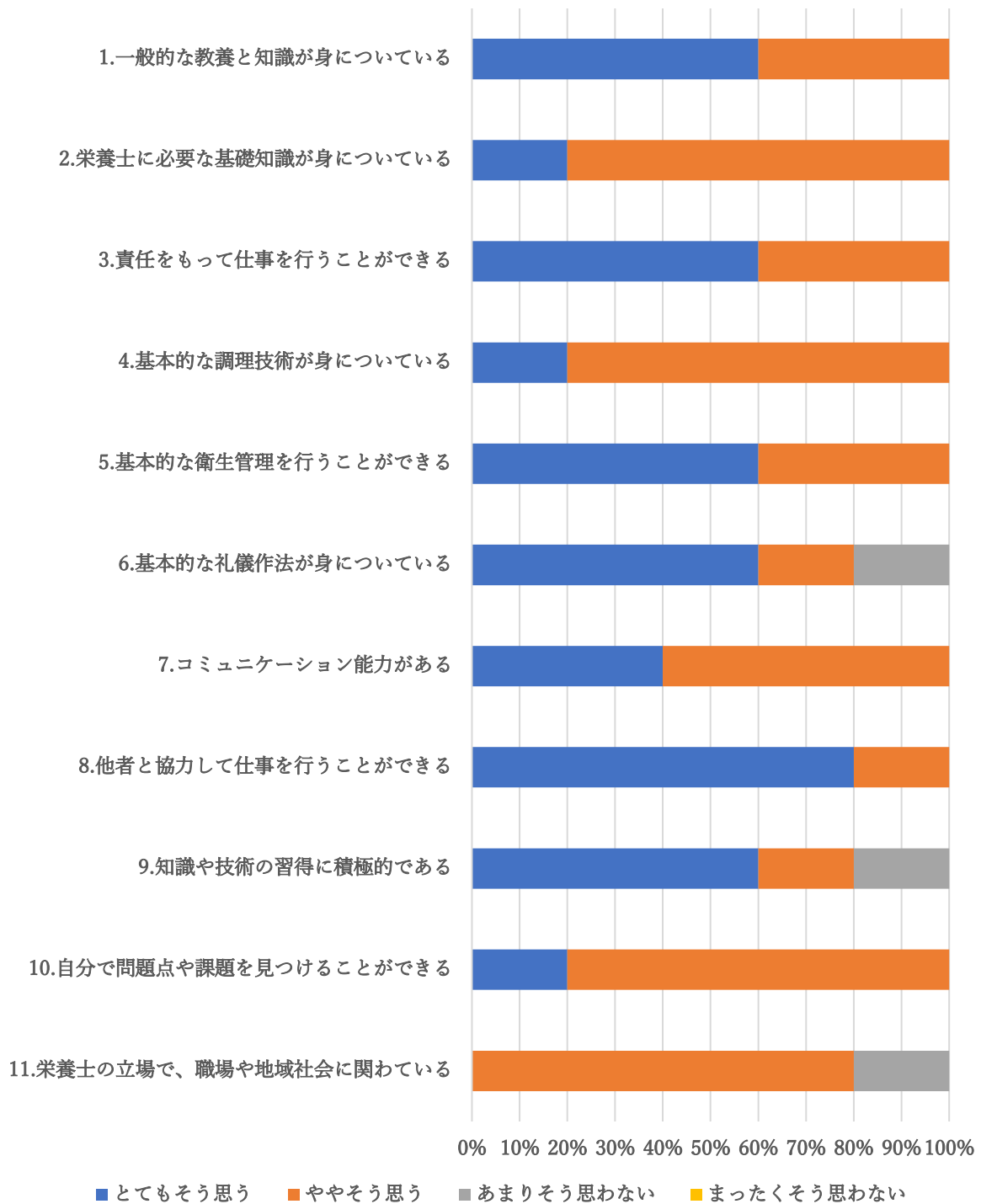
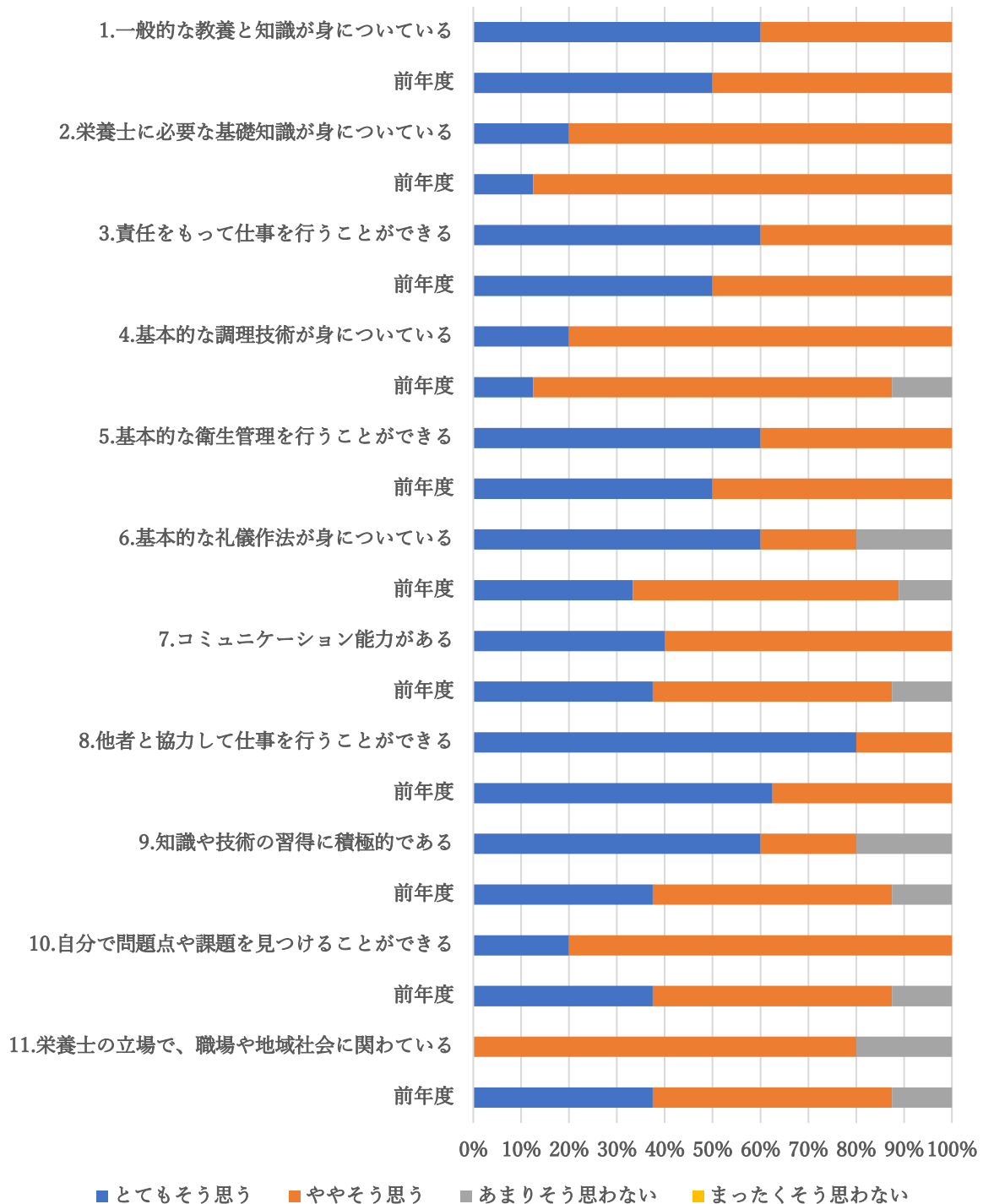


表 2 自由記載欄の記述回答

12. 要望(身につけてきてほしいこと、気づいたこと)など(自由記述)

- ・ コミュニケーション能力、リーダーシップ、目標達成力(受託給食では、歳上の従業員と関わることが多いためコミュニティ力が求められる場面が多くあると感じているため早い段階で身につけられると良いと感じています。また、職場では年数を重ねると営業所内での立場も変わり、リーダーシップが必要となります。)
- ・ 様々な方々と一緒に働くことになるので、多様な意見を尊重する「柔軟性」があるとスムーズなコミュニケーションが取れると思います。調理技術に関しては個人差がありますが、できている人、できていない人で入社後のスキルの習得スピード差が出るので学生のうちに身に付けておくと、自分が楽だと思います。
- ・ 特になし
- ・ 卒業生の皆さんは、日々コツコツと責任感を持って業務にあたってください。引き続き御校とご縁がありますと幸いです。よろしくお願いいたします。
- ・ 卒業生の皆様、日頃より即戦力としてご活躍いただきありがとうございます。社会にでも学ぶことたくさんあります。わからないことは遠慮なく質問し、学ぶ姿勢を持ち続けていただければ幸いです。

図2 企業アンケート結果（前年度との比較）



謝 辞

本調査にご協力いただきました、各企業総務・人事担当者様を始め関係部署の皆様には誠にありがとうございます。いただいた意見は、栄養学科の学生教育の改善に資するほか、学生の成長の手助けとなる貴重な意見と受け止めております。今後も頂いた意見を真摯に受け止め、より良い学修成果の達成に努力してまいります。再度、就職先企業の皆様のアンケートへの協力に心から感謝申し上げます。

仙台青葉学院短期大学 栄養学科